

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370104907		
法人名	有限会社 サン企画		
事業所名	グループホーム グリーンハウス		
所在地	岡山市中区祇園41-1		
自己評価作成日	平成31年1月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成31年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「明るく・楽しく・あたたかく」を理念に、生活環境や年齢など様々な方達が共同生活を送っておられます。家庭的な空間作りに努め、皆さまが穏やかに過ごしていただける様にしています。ご利用者ひとりひとりの思いを大切に、ご家族様と共に寄り添い、地域の交流やイベントに積極的に参加し、楽しい時間と思い出が残せるように考えて運営しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静で利便性の良い住宅地にあつて、永年地域と共に歩んできた実績があり、この度経営母体が医療機関となり運営の継続に職員の交代など変化も見られる中、いままでと変わらぬ雰囲気を入居者と共に「明るく、楽しく、あたたかく」をモットーにスタッフが力を合わせて取り組んでいく覚悟が窺えます。母体の医療法人の手厚い支援をバックに、これまで培ってきたサービスを活かした取り組みに期待が膨らみます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	倫理綱領を各ユニットに掲示、ご家族にも理念を示し全職員、共有事項として推進している	玄関を入ると、明るく・楽しく・あたたかく・みんな仲良くとの理念が掲示されています。スタッフは個々の年度目標を定め、3～6ヶ月で見直し、ミーティングで検証し、共有と実践につなげています。	年度途中の経営母体変更で、戸惑いもあると思いますが、皆で力を合わせ、地域密着型サービスの意義をふまえた理念を作り、共有と実践に繋がっていかれることを期待しています。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元町内会の餅つき・夏祭りなどに参加。地域の方も席を確保して下さる。特に餅つきでは餅ではなくお団子にするなどのご配慮をしてくださったりと良好な関係を築けている	利便性の良い住宅地にあり、開所以来16年となり、町内会行事への参加や散歩時の挨拶など、地域に溶け込みながら一員としての地位を築いてきています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事への参加をする事で、ホーム周辺の散歩時に声を掛けていただいたりし、認知症の方への理解も浸透してきている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	テーブル上での会議だけではなく、一部の行事にも参加頂き、ご利用者様の日常を見て頂く場を作り、意見を伺う事でサービス向上に活かしている	家族・地域住民・町内会長・民生委員・公民館館長・地域包括支援センター・同業者・地元議員等多彩な顔ぶれで2ヶ月毎に開催し、状況報告やテーマ(虐待防止等)を決めて話し合い、サービス向上に活用しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議メンバーに地域包括支援センターの方に参加いただき、関係を築いている。また手続きや運営の事などは市の担当の方に助言やご指導いただいている	運営推進会議での話し合いのほか、福祉や後見人についての相談などで直接出向いたり、電話で問い合わせるなど、実情を伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会への参加で意識付けするとともに、身体拘束廃止マニュアルを作成、これに即し進めている	マニュアルを整備し、ミーティングで話し合っ理解を深め、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに努めています。利用者のペースに合わせ、意向を汲み、離設時等さりげなく同行するように心がけています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修や内部でのミーティング時に虐待について話し合う場を設けスタッフ全員が取り組み防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方はおられないが、過去に利用した方があり、実績はあるので制度の理解は出来ている。今後利用する場合もスムーズに制度を活用できる体勢にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面による十分な説明を心がけている。また変更事項が発生した際は書面通知の他、来園時に直接説明し理解・納得をして頂けるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部機関への「苦情の流れ」に関するポスターを掲示。また意見、要望はいつでもお聞きする旨を契約時に説明。日頃から気軽に話せる関係を作り、意見・提案については早急に検討し反映できるよう努めている	話しやすい雰囲気づくりを心がけ、本人・家族が意見や要望を表せる機会(面会時・電話等)を設け、聞き取りや観察を申し送りに書き留め、ミーティングで話し合い、それらを運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	関係づくり出来ていたが、昨年末に経営母体の変更になり、新体制での日も浅いため、現在は以前のような関係づくりが出来るよう努力している。	昨年末に経営母体の変更になり、来月退職予定者もあり、新体制での始動は次年度になる見込みですが、代表者や管理者はスムーズなケアの継続や運営に向けて、職員意見の反映を今後の課題としています。	安全・安心のケアに向けて、利用者・家族の混乱を招く事の無いよう、実情を知る現場職員の意見を十分に聴き、働く意欲の向上や質の確保に努めていかれることを期待しています。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現代表者は過去の個々の実績・勤務状況を把握し、給与水準は保っている。他施設の就業環境と足並みをそろえるべく、現在整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現代表は、個々のケアの実際と力量の把握に努めている段階。研修会情報は入っておらず、一定の職員にしか声を掛けていない状況		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	推進会議メンバーに近隣施設代表者を交え交流し情報交換が出来るネットワークを構築出来ていた為今後も関係を継続できるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安を取り除くことを第一に優先し、安心できる環境づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階でご家族の不安や疑問など伺えるよう話しやすい環境づくりに努めている。入居後も気軽に話ができる関係性を継続できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の時点で今後必要と思われる支援を見極め、外部資源の活用も含めた検討をするよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はひとりひとりの残存能力を見極め、出来ない事を支援する協力者とした感覚を持ち、ご利用者様との関係づくりに努める		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と共にご本人を支えて頂けるよう、日頃から関係づくりが出来るよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や近所の方、古くからのご友人などの面会がある。イベント時には家族や地域の方へ参加の呼び掛けを行っている	親戚・近所・友人の面会、盆・正月の里帰り、行きつけの美容院の利用、墓参り、かかりつけの病院受診、奥さんに会いに実家へ等、本人を取り巻く人間関係や場所とのつながりが途切れないように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作業やレクリエーションを一緒に行う事で、ご利用者様同士が楽しい時間を共有できるようにしたり、談話スペースを作り、気の合う方同士でゆっくりと過ごせるよう配慮		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じて連絡を取りご家族の相談や支援が出来るようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望・意向を尊重し強制することなく自由な生活空間を提供。お手伝い役に徹し、見守りにて対応している	居室で1対1でじっくりと・あるいは入浴中にゆったりと対話し、家族から聞き取り、日頃の行動や表情などから汲み取り、カンファレンスで話し合い、思いや意向を把握するように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、これまで利用していたサービスからの情報を下に、これまでの生活歴を大切にこれからの生活に活かせるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のひとりひとりの表情や顔色を観察し、スタッフ間での共通認識が持てるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の想いを確認し、個々に合った介護計画になるよう職員同士意見を出し合い作成。三ヶ月に一度見直し、現状に即した介護計画の作成に努めている	定期的・変化に応じて見直し、本人の思いを尊重し、家族から事前に意向を伺い、医療情報を取り入れ、カンファレンスで話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録する「個人記録」に言動を記録。変化など見られたら詳細に記録し職員間で情報を共有、今後の支援に反映させると共に介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ柔軟な支援が行える体制を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内行事、公民館行事への参加や、地域のボランティアさんの慰問などあり、日々の暮らしの中でも楽しめるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	経営母体が医療法人になり、緊急時の対応が速やかに行える体制になっている。他科（歯科・眼科）の往診もある	経営母体の医療法人の往診や24時間365日の対応、訪問看護の利用・相談を中心に、従来のかかりつけ医や病院などの受診も継続しており、適切な医療の提供で安心につながっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の定期訪問時に情報交換を図ると共に、24時間受け付け体制を取っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院から退院の間に病院側と連携し、早期退院できるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた「看取り指針」を作成。入居時にご家族へ説明し、同意を得る。ここに至る状況になった場合は、ご家族・主治医を交え協議し、状況を理解いただき、今後の方針の共有化を図った上で支援に取り組む	看取り指針を備えており、本人・家族の意向をふまえ、随時意思を確認し同意を得るとともに、医師・看護師・職員・家族（時には泊まり込み）が連携を図りながらチームとなって、安心した最期を迎えられるように支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力の下、救命救急講習の実施、また外部講習会への参加順次進め体制強化を図る。尚、AED設置済み。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時におけるマニュアルを作成。また避難訓練では推進会議のメンバーにも参加していただき協力体制を整えている	災害時マニュアルを備え、町内会長・民生委員等運営推進会議のメンバーも参加協力して訓練に臨んでいます。昨夏の豪雨災害時にも付近の環境整備がなされ、被害はなかったとのことです。	地域との協力体制を築き、利用者の状態をふまえ、多岐にわたる災害時の具体的な避難策を昼夜を通じて検討し、いざという時慌てないように、万全の備えを今後も期待しています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの人格を尊重。人生の先輩として接し、日々楽しく過ごして頂くとともに、気配りを心がける。	一人ひとりの特性やその人らしさに配慮し、スタッフ間で共有し、尊厳ある姿やプライバシーが確保され、笑顔につながるように、さりげない言葉かけや対応を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	強制することなくご本人の意思を尊重。会話の中で自己決定できるよう働きかける		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間にとらわれることなく、ひとりひとりのペースを大切にし、今日一日を楽しく過ごせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る服の選択であったり、昔からの美容院へのこだわりのある方は引き続き通えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事やおやつ作りをしたりしている。イベント時には特別な献立にするなどしている。ご利用者の中には食前、食後の準備や片付けを自らの役割としてされているかたも居られるが、その日の状態を見ながら行っている。	食材や献立表は外注しているが、おやつ作り・イベント・野菜の差し入れ(中には家族からおせちも)など特別メニューもあり、お盆拭きやできることを一緒に行いながら、ともに食卓(時にはテラスで)を囲んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事摂取量を記録。また自己管理出来ない方の水分摂取量も記録・管理している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来ない方は介助、または口腔ティッシュ等にて行っている。夜間は義歯を外し洗浄している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを掴み、適切なタイミングでの声掛けを行う事でトイレでの排泄の自立支援を目指している	パターンを把握して声掛け・見守りし、できるだけトイレでの排泄を心がけ、おむつ使用を減らすように取組み、夜間もポータブルやトイレ介助で自立支援に向けて援助しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や乳酸菌飲料、その他水分を食事やおやつ時に摂っていただいたりすることで、出来るだけ薬に頼らない排便を目指している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間的にはスタッフ配置上、午後からとなる。本人の希望も聞き、出来るだけ、個々に沿った支援が出来るよう努めている	浴室と扉一枚でトイレがあり、脱衣所には縁台が備えられ、座位でのシャワー浴設備もあり、清潔で暖房が行き届き、毎日でも入浴が可能で、希望やタイミング、拒否者への心配り等、個々にそった支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣、その日の体調にて休んで頂く。またパジャマ、シーツ等は定期的に交換し気持ちよく休んで頂ける様支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はファイルし、職員がいつでもすぐに確認できるようにしている。服薬介助する場合には複数の職員でチェックし、誤薬防止するように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の持てる力を維持・継続できるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	集団生活の場であり制約はあるものの、計画的な外出、またご家族の協力を得て共に外出を行っている。近所の散歩は気軽に行き出ることが出来て運動にもなり、気分転換することが出来るので日常的に取り入れている	散歩で近くの神社まで出かけたたり、庭のベンチでのお茶や食事等で外気に触れる機会を作り、通院・外食・帰宅・町内行事・花見やドライブ等、家族の協力も得ながら、できるだけ戸外に出かけられるように支援しています。	気分転換やストレスの発散、五感刺激の機会として外出を活用し、短時間でも戸外に出る工夫をし、普段は行けないような場所へも、希望に添いながら、家族や地域と協力して出かけられる支援を今後も期待しています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方は自己管理されており、外出や買い物の際は支払えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望されればいつでも対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	穏やかに暮らせる空間づくりに努めている。また立地上騒音もなく静かな場所としてもプラスとなっている	平屋造りの建物は外観・内装・設備ともよく整えられており、リビングは天窓から光が差し込み、開放感があり、畳の間もあり、テーブル・椅子・ソファなどは落ち着いた配色で、季節飾りがなされ、日中皆が集い、居心地よく過ごせる空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファ、居室、談話スペースなどその時の気分で過ごして頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	専用個室として自由に使用いただき、家族の想いを含め趣味の物、写真、テーブルや家具など使い慣れた物を持ち込み使用して頂いている	入り口に写真付きの表札がかかり、居室内は明るく清潔に保たれ、好みのものや使い慣れたものを持ち込んで自由に配置し、本人が居心地よく過ごせるように工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手摺を設置し歩行を手助け、時には「トイレはどこ？」となる方もあるので、手作りの標識を作成し一人でも行けるようにしている。		